

目次

[概要](#)

[例外表はどのように ESA のはたらくか。](#)

[割り当て処理](#)

[リジェクト処理](#)

概要

Eメールセキュリティ アプライアンス (ESA) の例外表がどのようにはたらくかこの資料に記述されています。

例外表が ESA のはたらく仕組み

例外表は-動作の 2 つの異なる型との... eメールアドレスを-完全か部分的なリストしたものです: 割り当てかリジェクト。メールフローポリシーでは、チェックされるオプション「使用 送信側確認 例外表」必要は他では例外 テーブルエントリー一致しません。

割り当て処理

例外表の割り当てリストは送信側 DNS 確認をバイパスします。 エンベロープ 送信側のドメインか eメールアドレスが例外表にリストされている場合、送信側はエンベロープ 送信側 eメールアドレスのドメイン名が解決されますかどうか ESA へメールを送信することを続行することができます。これは他では確認されなくても) **送信側 DNS 確認が有効になるドメインが解決されま**すとき役立ち、(内部からの例えば割り当てメールはまたはドメインをテストします。

送信側 DNS 確認が使用中のメールフローポリシーのために有効になり エンベロープ 送信側のドメイン名が(不正ありませんし、解決されま

すではないです) 解決されま

す場合、メッセージは拒否されます。SMTP 応答の例はここにあります:

エンベロープ 送信側の eメールアドレスかドメインが割り当て動作を用いる例外表にリストされている場合、送信側はメッセージの残りを続行できます (RCPT TO、DATA、等、およびメッセージの正常な処理は起こります: メッセージ フィルター、反スパム スキャン、等)。これは証明できない送信側のドメイン名にもかかわらずアプライアンスにメッセージを可能にします。たとえば、送信側は次の状況のもとで拒否されます:

これは拒否された送信側用のログのエントリです:

@example.com のための「割り当て」リストが追加される場合、送信側は許可され、このエントリはログに現われます:

リジェクト処理

メッセージはエンベロープ送信側が例外表のリジェクトリストと一致する場合拒否されます。デフォルトで、SMTP 応答は次のとおりです:

「リジェクト」動作を用いる user@example.com のようなリストがある場合、エンベロープ送信側が「user@example.com」拒否されるどこにであるかどのメールでも送信しました: